

ジュニア世界選手権大会 (JWOC2004)は7月上旬にポーランドで開催される。4月11日に行われた選考会において以下の男女各6名が日本代表に決定した。

今年のジュニア世界選手権大会 (JWOC2004)は7月5~10日の日程でポーランドにて開催される。JWOCは20才以下の世界選手権で世界中の若きエリートたちの登竜門で、毎年30カ国を超える国がエントリーし、競技はショート(予選・決勝)クラシック、リレーが行われる。日本からの代表選手が4月11日に愛知で開催された選考会で選ばれた。

今年はJWOC2003に出場した選手3名を含め3年生メンバーが多く、本大会では経験を生かしたレースが期待できそう。しかし日本人にとってJWOCはあくまでチャレンジの場だ。自分を見つめ直し、目標に向かってどれだけ準備ができるかがカギになる。選手たちはこれから3回の国内強化合宿を経たのち、遠征となる。読者の皆さんには、限られた期間に精一杯の準備をする選手たちに、いろいろな形で応援をお願いしたい。以下、その12名の選手を紹介しよう。

原 直子 (東京女子大学 3年)



セレ1位通過 全日本W20E 優勝 JWOC2003

昨年のJWOCから帰国後、秋のインカレショートでいきなり3位に入賞して脚光を浴びた。

選考会では2位以下を8分も引き離す快走を見せたが、昨年の経験を生かして今年はさらに上を目指す。

「去年は何をやったらいいのかわからないままあっという間に3カ月経ってしまったので、今回は計画をたてて、ちゃんと準備をしていきたい。」と語る。

渡邊りつ子 (日本女子大学 3年)



セレ2位通過

昨年まであまり目立った実績こそなかったが、クラブ行事などを含め毎週のように山に入ることを続けているうちに着実に下地ができてきた。OCという恵まれた環境の中で今後のレベルアップを期待しよう。

「伊賀インカレでようやく競技に目覚めました。これからいろいろ吸収していきたいと思います。」

橋本陽子 (日本女子大学 3年)



セレ3位通過 全日本W20E 2位

さわやかな新歓でだまされて始めたオリエンテリングだそうだが、今では毎週山に行く生活にすでに成長。インカレ選手権クラスへの出場はならなかったがWALクラスでは2位入賞と、この半年で著しく伸長した。マイペースなレースが信条で、取り組み次第でまだまだ可能性を秘めている。

「通過できて本当に嬉しいです。海外に行くのは緊張ですが、少しでも成長できるようにあと3ヶ月精一杯努力したいと思います。」

荒井奈保美 (宮城学院女子大学 3年)



セレ4位通過

大学に入ってから、MGの熱心な先輩た

ちに引っ張られてオリエンテリングにはまっていった1人。毎週早起きして山に行くことなどまったく想像していなかったと語る。

「悔いの残らないレースができるように、技術・体力面での不安をあと3ヶ月でできるだけでなくして臨みたいと思います。」

岡田瑛美 (早稲田大学 2年)



JOA 推薦

高校時代に陸上短距離をやっていた経験がある。負けず嫌いの性格が、競技者として良い方に出れば一段の飛躍が可能であろう。

「セレクションに通過するなんて夢にも思っていなかったので喜びと不安が交錯している状態です。残りの3ヶ月でしっかり準備をしていこうと思っています。」とすべてはこれからだ。

角田明子 (岩手県立大学 2年)



JOA 推薦

創部2年目の岩手県立大学から、もちろん初めての代表入りだ。岩手は遠隔地だがJWOC2002、2003選手の岩手大学の下村佳奈や、顧問であり創業者?の東大OBの安保寛明氏が近くに居るのは心強いはずだ。若さの特権である思い切りの良さを武器に練習に打ち込めば、いくらかでも可能性広がっていくはずだ。

「代表に選ばれるとは思っていなかったのですが、残り3ヶ月できる限りの準備をして挑みたいと思います。自分の力を全て出しきってきます！」

高橋雄哉 (図書館情報大学 3年)



セレ1位通過 東日本 M20A 優勝
JWOC2003

春のインカレリレーで1走トップゴールを果たした走りは記憶に新しい。富士登山駅伝でも1区を走り、オリエンティアチームの中でトップタイムを出した陸上出身の走力がある。今回の選考会でも2位以下を大きく引き離してトップ通過と成長した。

「今年は時間的にも気持ち的にも余裕があるので、十分に練習して本番に臨みたいと思います。」

とさらに上を目指しての挑戦だ。

山崎貴彦 (東京大学 2年)



セレ2位通過 全日本 M20E 優勝
JWOC2003 IC2003 ME 18位

中学から始めた経験者で、昨年大学入学直後にいきなり JWOC 遠征。インカレでは秋・春ともに新人特別表彰を受ける。昨年の経験がどこまで生きるか注目しよう。

大西康平 (京都大学 2年)



セレ3位通過 IC2003 ME 29位

中高と6年間サッカーをやってきており、走りきる体力に自信を持つ。JWOCを目

指しつつ大学に入ったということなので、京都大学という恵まれた環境の中でどこまで高い目標に挑戦してくるか楽しみにしよう。

池陽平 (北海道大学 3年)



セレ4位通過

学連の仕事や北大大会の準備と幅広くオリエンタリングと関わりあっている。「インカレエリートに負けないようにがんばる」と語る。JWOCを通じて、オリエンタリングの楽しみを見出すのが当面の目標か。

鎌田健太郎 (新潟大学 3年)



JOA 推薦

高校時代はサッカーの経験がある。翌週に主催大会を控えたにもかかわらず、選考会へ6名と最大の人数で挑戦した新潟大学からのメンバー入りだ。多くの仲間に支えられて精一杯の準備をしてくるだろう。

「あと約三ヶ月間、一生懸命に満足のいくトレーニングをし、自信を持ってレースに臨めるようにしたいです。応援よろしくお願いします。」

海老成直 (中央大学 1年)



JOA 推薦

山崎と同様、中学から始めたオリエンタリングは今年で8年目。2年前の選考会では8位と惜しくも代表入りを逃しているが、今年を受験明けすぐという時期にもかかわらずメンバー入りを果たす。トータスや上尾OLCの環境の中ですぐに過去の勳を取り戻し、さらなる上積みをしてるだろう。

今年は、門間幸恵(宮城学院女子大学3年)と関谷茂樹(東北大学3年)が補欠として控えており、選手と共に強化合宿に参加する。チームオフィシャルは例年の尾上団長に加えて静岡大学OBの李敬史が同行予定であるが他はまだ決まっていない。

来年のWOC2005に向けてシニアのNT選手が頑張っている中で、次世代を担うジュニア選手が JWOC の場でどんな活躍してくれるのかは大きな楽しみである。

大会の様子は以下の公式サイトで紹介されるはずである。

<http://www.wksflotagdnyia.pl/jwoc2004.htm>